

令和2年度きのくにコミュニティスクール推進座談会 〔和歌山市・伊都・那賀・海草・有田地方〕

1. 日 時 令和2年12月3日（木） 13時00分～16時45分
2. 場 所 那賀総合庁舎3階大会議室
3. 参加者 市町教育委員会（CS担当者、地域学校協働活動担当者） 14名
（和歌山市、紀の川市、岩出市、橋本市、九度山町、高野町、海南市、有田市）
地域コーディネーター、公民館関係 3名（橋本市、海南市、有田市）
学校運営協議会委員 7名（和歌山市、海南市、有田市）
小中学校管理職 6名（紀の川市、岩出市、海南市、紀美野町、有田市）
合計 30名

4. (1) ねらい

- ① 伊都・那賀地方コミュニティ座談会(7月開催)、きのくにコミュニティスクール推進座談会(10月開催)の流れを受けたパネルディスカッションを通して学校教育と社会教育両面からの実践を共有する。
- ② 同じ立場や異なる立場の方々との協議を通しての情報共有を行い、新たなネットワークを構築する。

(2) 成果

- ① 1回目の座談会のテーマは、「学校教育行政と社会教育行政のマッチング」、2回目の座談会のテーマは、「県全体で地方を越えた取組の共有」であった。3回目の今回は、有田地方以北の地域限定で行い、2回目の座談会以降に取り組んだ新たな実践事例を共有することをねらいとして行った。
パネルディスカッションでは、「広報活動や周知」、「地域人材確保」といった点について話し合い、地域や学校による違いや工夫があり、それぞれの地域や学校に合ったコミュニティ・スクールの形があるということを共有できた。
- ② 同じ立場の参加者同士の協議では、「同じ立場だからこそ話し合える悩み」、「他市町や他校の事例」について共有することができた。
異なる立場の参加者同士の協議では、学校・地域（家庭を含む）・行政の三者が、それぞれの悩みや課題について意見を交わし、異なる立場だからこそその発見があったり、課題解決につながるヒントを得ることができた。
ワークシートの共有には、ギャラリーウォークを行ったことで、自由な雰囲気の中で、地方を越えた新たなネットワークが生まれた。座談会が終了した後も、活発な意見交換が行われた。

(3) 課題

- ① 岩出市、海南市では、きのくにコミュニティスクール推進に向けて動き始めたが、様々な立場、様々な意見がある中で、お互いの意見を尊重しながら、長期的ビジョンで推進していく必要がある。他市町村や他校の取組は参考になるが、そのままスライドさせた取組にはできない。パネルディスカッションで出された意見についても、自分の市町村や学校に持ち帰り、共育ミニ集会を活用したり、学校運営協議会の中で熟議を行い、それぞれの学校のコミュニティ・スクールのスタイルを確立していくことが必要となる。

- ② 今回の座談会には、和歌山市・伊都・那賀・海草・有田地方の方々が参加してくれたが、座談会の中でそれぞれの地域のバックボーンを把握するのに時間を要した。同じ立場での協議と異なる立場での協議を比較すると、異なる立場の方々が集まった協議が活発であったように感じた。学校運営協議会においても、異なる立場の方々の集まりであるので、活発な熟議ができるはずである。そのためには、「地域にある学校」を「私らの学校」として考えることのできる人材確保が急務である。

5. 内容

◆行政説明

きのくにコミュニティスクールについて

～学校運営協議会と地域学校協働活動の連携協働に向けて～

紀北教育事務所 社会教育課 木下 豪人

- ①地域学校協働活動について
- ②地域学校協働本部とは
- ③コミュニティ・スクールとは
- ④学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進について



◆パネルディスカッション

「コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の取組から」

「共育コミュニティ（地域学校協働活動）の取組から」

コーディネーター	高野山大学	客員教授	今西 幸蔵 氏
パネリスト	岩出市教育委員会	教育総務課	庄司 清弥 氏
	海南市教育委員会	生涯学習課	矢船 晋佑 氏

○発表各市の新たな取組

岩出市は、今年度から「岩出市共育コミュニティプロジェクト会議」を立ち上げ、教育総務課と生涯学習課の連携がスムーズになった。また、2回目の座談会で実践発表を行った紀の川市の事例をもとに、紀の川市と交流を深めながら岩出市でも教育総務課と生涯学習課が連携し、学校運営協議会訪問を行った。



海南市は、伝統のある共育コミュニティを基盤とした活動を中心としながら、今年度から開始した県CSマイスター派遣事業を活用し、生涯学習課と学校教育課が連携し、合同研修会を行った。

◆座談会

学校運営協議会と地域学校協働活動を一体的に推進するために…

講評	高野山大学	客員教授	今西 幸蔵 氏
コーディネーター	紀北教育事務所	社会教育課	大谷 正明

○ワークシート

私は、としてCSに関わります。

わが
私らの学校（私）ができていることは、

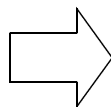
です。

わが
私らの学校の課題は、

です。

わが
私らの学校（私）は明日から、
にTRYします。

名前（）



（例）

私は、教育コミ担当としてCSに関わります。

わが
私らの学校（私）ができていることは、

市CS担当と一緒に、各学校運営協議会に（一部）
オブザーバー出席です。

わが
私らの学校の課題は、

各学校で取り組む教育コミの内容がバラバラ
なのは結構なんだが、統一した目標を持つのはいいです。

わが
私らの学校（私）は明日から、

学校、公民館より連絡、情報共有を
進めながら、統括コーディネーター会議の充実にTRYします。

私は、行政職員としてCSに関わります。

わが
私らの学校（私）ができていることは、

各学校のCSの取組状況の把握
（注）地域の方々との関わりのある既存の活動が何からあり得るです。

わが
私らの学校の課題は、

人材発掘・確保と教職員の参画意識です。

わが
私らの学校（私）は明日から、

生涯学習課との連携による実働組織
教育コミのコーディネーター確保にTRYします。

○前半は、学校、学校教育行政、社会教育行政、学校運営協議会委員等といったそれぞれの立場別のグループで話し合い、ワークシートの「できていること」や「課題」について共有した。

○後半は、市町やそれぞれの立場を越えたグループで、様々な意見を出し合いながら、「TRY」することを共有した。

○講評

【ゴールイメージ】

- ・地域の子供は地域で育てるという意識が大切。
- ・行政主導ではなく、地域が運営できる学校。

【キーポイント】

- ・コミュニティ・スクールが導入された背景には何があるのか。
- ・学校の自律性を担保する（School autonomy）
- ・地域や学校の実情に合わせたコミュニティ・スクールの形がある。
- ・社会教育の頑張り。地域学校協働活動推進員、地域学校協働本部の存在。
- ・学校教育、社会教育の連携。
- ・様々な各種団体を整理する時期に来ている。

【人材確保】

- ・社会教育のリーダーやPTAの経験者、自治組織との連携協力。

【広報・周知】

- ・各市町村の教育委員、社会教育委員の方にも知ってもらい、協議の場を設ける。



6. 参加者の声（アンケート自由記述より）

- ・人材確保と広報の難しさ。地域にあった運営協議会にしていきたいと思います。
- ・若い年代につなげていくためにどうするか。
- ・岩出市、海南市の実例が勉強になりました。
- ・今年度はコロナの影響で、地域ボランティアの方々に来ていただくことができませんでした。外でボランティアの方にお会いした時に「声をかけてくれるのを待っているよ」というお声をいただき、たいへん嬉しく思いました。また、「コロナで学校もしんどいね。」と言って、たくさんのお花を届けてくださったりとたくさんの地域の方々に温かいお気持ちで支えていただいています。あれもこれもと気持ちは焦ってしまう時もありますが、今年度からコーディネーターの方を選任させていただいたので、少しずつ無理のない程度で、相談しながらコミュニティを進めていこうと思っています。
- また、本校では、校務分掌の中にコミュニティを位置付けていますが、先生方の負担等を考えると、なかなかすべてをお任せすることができないでいます。今後の課題です。
- ・来させていただいてよかったです。一緒に来ていた公民館長さんと納得し合いました。また今回も勉強になりました。
- ・どこの地域でも同じような課題を抱えており、他市との意見交換はとても大切だと感じました。
- ・今後の見通しが、だんだんと具体化してきたように感じていますが、しなければならぬこと、したいことがたくさん出てきたので、焦っています。が、今西先生がおっしゃるように1歩ずつ取り組んでいこうと思います。今回の研修も参考になりました。
- ・いろいろな立場の方からのお話が聞けて参考になりました。

